

自己紹介

<略歴>

- 2003年 群馬大学医学部医学科入学
- 2009年 群馬大学医学部医学科卒業
初期臨床研修(東京厚生年金病院(現JCHO東京新宿メディカルセンター))
- 2011年 後期研修開始(前橋赤十字病院高度救命救急センター集中治療科・救急科)
- 2015年 救急科専門医取得
- 2016年 厚生労働省入省

<行政に携わることとなった経緯>

- 救急・集中治療の現場に身を置く中で、①予防・健康作りや、地域社会におけるセーフティネット構築の重要性を感じたこと、②医療提供体制の整備(医療機関間連携、他施設連携)の重要性を感じたことをきっかけに、「どうやって仕組みができているのか」自らの目で見ただ上で、医師としてどのような関わりができるか、知りたくなった。
- 医系技官の存在は初期研修2年目くらいから認知していたため、情報収集を続け、プロパー採用試験の受験に至った。

職場紹介

<組織図> 右図のとおり



<厚生労働省の任務> (厚生労働省設置法より抜粋)

- 厚生労働省は、**国民生活の保障及び向上**を図り、並びに**経済の発展**に寄与するため、**社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進**並びに**労働条件その他の労働者の働く環境の整備及び職業の確保**を図ることを任務とする。
- 前項に定めるもののほか、厚生労働省は、引揚援護、戦傷病者、戦没者遺族、未帰還者留守家族等の援護及び旧陸海軍の残務の整理を行うことを任務とする。

仕事紹介

<業務例1> 風しん対策

- 2018年11月頃の風しん患者の増加を受け、対策チームとして業務にたずさわる
- 対象者(当時39歳~56歳の男性)への「風しん抗体検査」及び「抗体陰性の者への予防接種」を効率的に実施するため、「事業者健診」の機会を活用した抗体検査の実装に向けた調整を主に担当
- 多くの関係者の理解と協力を得て、全国規模の集合契約を締結し、都道府県を越えた医療機関・健診機関での抗体検査の実装と予防接種体制の構築に携わることができた

<業務例2> 不妊治療の保険適用

- 2022年4月の診療報酬改定に向けた業務のうち、不妊治療の保険適用を担当
- 保険適用までのロードマップ作成、評価体系の設計、具体的な項目の内容設計など、技術的事項の総括を担当した

<業務例3> がん対策推進基本計画、循環器病対策推進基本計画の改定

- 2023年3月の両計画の閣議決定に向けた業務を担当
- それぞれの計画に関する審議会を運営し、関係者の意見を踏まえた改定案の作成と、その後の具体的な政策立案業務に従事した